

| | |
|---|---|
| 研究テーマ：「意図的・組織的・就学前教育（保育）」に関する研究 ～心身を鍛え、主体的に学ぶ意欲をもった子どもを育てるために～ | |
| 研究代表者（職氏名）：教授 中瀬古 哲 | 連絡先（E-mail 等）： 広島キャンパス・人間文化学部・健康科学科 nakaseko@pu-hiroshima.ac.jp |
| 共同研究者（職氏名）：光本弥生（鈴峯女子短期大学・准教授） 藤井浩樹（県立広島大学・准教授） 中野充希子、細川未紗、三浦康平、渡部綾（平成 20 年度・中瀬古研究室ゼミ生） | |

研究の目的

身体運動文化のもつ総合的な教育機能のうちでも、人格形成機能に密接に関係あると思われる「社会的発達機能」を中核にすえ、心身を鍛え、主体的に学ぶ意欲をもった子どもを育てる保育カリキュラムの開発を実践的に行なうこと。

研究の方法

1 年を単位とした、実践（課業）づくりへの参画とデータ収集

保育園に出かけ、課業（教授・学習活動）の作成・実施・修正場面に参画。

「文化・教材（あそび）」の活動分析による内容構造の検討

「文化・教材（あそび）」の担っている、心身形成と社会的発達の関わる機能・構造・意味の検討。

保育カリキュラムの論理的構造の分析（平成 20 年）

カリキュラムの目標 内容 方法の構造と時系列的な変化の特徴を捉え固有の条件や意味の読取。
就学前幼児の発達と身体運動文化の教育的機能

発達課題や生活課題を踏まえ、活動システムの視点から、「身体運動文化」の教育的機能を描く。

保育士の成長と体育カリキュラムの開発（平成 21 年）

担当保育者の体育カリキュラム、身体形成、社会的発達、実践づくり、子ども観、保育観に対する意識の変容描写。

研究の結果（経過報告）

実践（課業）づくりへの参画

私立保育園（2 園）、公立保育園（3 園）、公設民営保育所（2 園）の設置形態の違う保育施設 7 箇所を対象に、合計 53 回のフィールドワークを実施した。延べ、198 名の就学前児童（5 歳児）のボールゲームの教授・学習活動を中心に、約 1 年間に渡って保育園における身体運動文化に関わる教育（＝保育）実践を継続的に観察・分析した。

表 1 平成 20 年度フィールドワークの実施状況

| 保育園 | 設置形態 | 所在地 | 訪問回数 (回) | 観察対象 児童数(人) | 備考 |
|--------|------|-----|-------------|----------------|------|
| N 保育園 | 私立 | 広島市 | 6 | 20 | |
| K 保育園 | 私立 | 広島市 | 11 | 35 | |
| IE 保育園 | 公立 | 広島市 | 6 | 46 | 2クラス |
| YH 保育園 | 公立 | 広島市 | 5 | 23 | |
| TM 保育園 | 公立 | 広島市 | 6 | 42 | 2クラス |
| M 保育所 | 公設民営 | 庄原市 | 8 | 18 | |
| SK 保育所 | 公設民営 | 庄原市 | 9 | 14 | |

明らかになった知見(「文化・教材(あそび)」の活動分析による内容構造の検討)

延べ198名の就学前児童(5歳児)の、運動遊びの課業(ボールゲームの教授 学習活動が中心)を、約1年に渡って継続的に観察した結果、以下のような知見が得られた。

まず第1に、投動作の習熟に関して、両手オーバーハンド投げ、チェスト投げ、片手添え投げ、ピッチング投げ、の4つの典型的なパターンが出現し、それぞれのパターンに、体重移動やリリースのタイミング等の投動作の基礎的能力の獲得に関わる習熟過程が存在すること、第2に、そのパターンは、的及びボールの大きさや場面設定等の条件に大きく規定されることが明らかとなった。第3に、就学前においては、8人に1人の割合で、社会的発達に関わる課題を有する幼児が存在する(障害児も含む)こと、第4に、それらの子どもの集団学習活動への参加或いは関係性の変革において、ボール遊び運動は、大きな教育力を有することが示唆された。

その他、水泳指導の実態について、設置形態(=条件)と水泳観の違いという観点から整理し、カリキュラムづくりのための基礎的知を得るとともに、「縄跳び」を課業で扱う際の基礎的知見を得ることができた。

研究成果の交流・公表・活用

学会発表：

就学前体育のカリキュラム開発に関する実践的研究(1) 典型教材(運動遊び)の析出と教育的機能の検討，日本教科教育学会第34回全国大会，2008年12月7日，宮崎観光ホテル。

実践報告：

課題提案者の経営する保育所及び連携先の公立保育園の中間総括を、第10回広島県保育団体合同研究集会・5歳児保育分科会にて、実践報告という形で一般公開した(テーマ「みんなが楽しく遊べるクラスづくり～『的あて』を通して～」)。

中間総括：

フィールドワークの成果を還元・交流するため、2008年11月15日(土)16日(日)本学において、関係者が参加し、中間総括研究会を実施した。

研究発表：

フィールドワークで関わった保育園の実践(TM保育園)が、全国保育協議会主催の第55回中国地区保育研究大会(2009年7月9日)のレポートに選出された

成果活用：

平成20年度地域連携事業・廿日市市スポーツ振興ワークショップ「食とスポーツで健やか"こころ"と"からだ"を育むために 講座：就学前児童のための“的あてゲーム”コミュニケーションに課題のある子どもを対象とした体育指導・チームづくり(2008年8月24日)」にて実践研究の成果を広く地域に還元するとともに、その機能を再確認した。